
平成30年度次世代ボランティア人材育成事業
2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ
－2018から2020へ－

事業報告書



2019. 3

千葉県

特定非営利活動法人 生涯学習応援団ちば

□目 次

はじめにー主催者あいさつー	1
千葉県環境生活部県民生活・文化課	
平成30年度千葉県ボランティア参加促進事業 「2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ」の実施結果	
I 事業の目的	2
II 事業計画	2
III 事業実施結果	3
IV 2020ちばおもてなし隊チャレンジステージの推進	10
V 活動の様子	13
VI 今後を展望して	16
VII 資料・参加者の声	20

表紙：フォーラム「2020へ！わたしたちのおもてなし」
ゲストスピーカー（金子和也さん、都築則彦さん）と高校生・大学生の皆さん
裏表紙：フォーラム「2020へ！わたしたちのおもてなし」ポスター
ポスター・チラシデザイン：伏見 拓さん（千葉大学法経学部2年生・学生団体おりがみ）
協力：渡辺修一さん

はじめに－主催者あいさつ

千葉県環境生活部 県民生活・文化課

皆さんこんにちは。千葉県県民生活・文化課の高岡と申します。本日はようこそおいでいただきました。主催者を代表してお礼申し上げます。

さて、このフォーラム「2020へ！わたしたちのおもてなし」は、次世代を担う若者に地域のボランティア活動などに参加していただき、今後のボランティア人材となっただくことを狙いとした、県の「次世代ボランティア人材育成事業」の一環として、「特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば」のご協力を得て実施するものです。

早いもので、東京オリンピック・パラリンピックの開催が来年となりました。

県でも昨年の9月から12月に都市ボランティアの募集をしましたが、募集人数3,000人に対し6,546人と2.2倍の応募があり、県民の皆さんが大会の開催に大きな関心をお持ちであることを実感したところです。

2020年の大会時には県内8競技が開催され、国内外から多くのお客様が千葉県を訪れます。このようなお客様を「おもてなし」の心を持って温かくお迎えし、「千葉に来てよかった、また来たい」と言っただけのよう取り組んでいく必要があると考えています。

すでに、大会に向け、多くの団体や学校では、様々な取組を実施していただいておりますが、本日は、まず、それらの方々から活動の紹介をしていただきます。その後、トークセッション、ワークショップと続き、最後にまとめを行っていただきます。

本日のフォーラムで他の方の発表などを聞いたり、意見交換を行うことで、新しい「気づき」や「発見」があるかもしれません。本日得たものを、今後、実際の活動や行動の中で生かしていただければと思います。

それでは皆さん、今日はどうか楽しく有意義な時間を過ごしてください。

(平成31年2月16日開催のフォーラムでの主催者あいさつを掲載しました。)

平成30年度次世代ボランティア人材育成事業 「2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ」の実施結果

I 事業の目的

2018年8月には千葉県内で世界女子ソフトボール選手権大会が開催され、2019年ラグビーワールドカップ時には県内数都市が公認キャンプ地に決定、そして2020年東京オリンピック・パラリンピックでは千葉県内で8競技が開催され、大会やボランティアへの関心が一層高まるものと思われる。このような機運を受け、これまでの2020ちばおもてなし隊の活動成果を踏まえ、「参画と繋がり」、「Action」をキーワードにした多様な実践体験の場の創出を目指した。実践体験を行うにあたっては、大学生と高校生等の連携を基本に、様々な主体、年齢層の繋がりを広げ、「おもてなし」、「ボランティア」の基盤、人材づくりに寄与することを目指した。

II 事業計画

上記業務の目的を達成するため7つの事業を計画した。

1 第16回世界女子ソフトボール選手権大会でのおもてなし活動の実践

(1) 成田空港での選手たちの出迎え

大会組織委員会と連携し、大会参加国選手の空港での出迎えを行う。

(2) 大会期間中の選手等との交流とおもてなし

8月9日の移動日・休養日に選手の宿泊場所で文化体験等を展開する。

2 国際会議等でのおもてなし活動の実践体験

プロジェクト結の「箸置きプレゼント」との協働事業として行う。

幕張などで開催される世界女子ソフトボール選手権大会や、国際会議の機会を活用して高校生たちが箸置きの「渡し隊」、「伝え隊」の役割を担うことで、おもてなし活動への参加及び箸置きを作っている高齢者・障がい者の皆さんとの交流の機会を提供する。

3 空港での歓迎イベントの研究と提言

2020年オリンピック・パラリンピックの出場選手たちが日本に最初に訪れる成田国際空港で日本らしい歓迎の意思を表すために、どのようなことができるかを民間企業などと連携して、現地でのフィールドワーク、オリンピック・パラリンピック出場経験者のヒヤリングを含め調査・研究を行い、その結果を関係方面に提言する。

4 高校生たちからの提案アイデアの実現

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージでは、高校生たちからおもてなし活動に関して様々なアイデアが提案された。本年度は、提案者及び関係者・関係校と連携して、提案されたアイデアの実現を目指す。

5 オリピック・パラリンピックの意義の普及とパラスポーツの体験・普及

これまでの2020ちばおもてなし隊や、学生団体おりがみの活動実績を踏まえ、以下のような事業を行う。

- (1) オリピック・パラリンピックの理解促進のため、要請に応じて関係者等を学校に派遣
- (2) パラリンピック競技の普及・体験・交流の推進

体験会等の開催を通じてパラリンピック競技の理解を図るとともに、参加者同士の交流を進める。

- (3) 特別支援学校生徒との交流

高校生・大学生等が特別支援学校の生徒とパラスポーツの体験を通じて交流を進める。

6 オリピック讃歌普及の促進

千葉県高文連などと連携し、高校生たちが行う「オリピック讃歌」の普及活動を支援する。

7 フォーラム「私たちのおもてなし」（仮題）の開催

高校生・大学生をはじめ、ボランティア活動に関心のある個人・団体等の交流の場とするため、次のような構成で実施する。

- (1) おもてなし活動の実践事例の発表
- (2) テーマを設定して高校生・大学生たちによるグループ討議
- (3) 全体交流会

Ⅲ 事業実施結果

1 第16回世界女子ソフトボール選手権大会でのおもてなし活動の実践

本年度の事業を実施するにあたり、事前に県内の高等学校に「世界女子ソフトボール選手権大会でのおもてなし活動の実践」、「国際会議等でのおもてなし活動の実践」及び「空港での歓迎イベントの調査と提言」への参加について意向調査を行なったところ、以下の高等学校から参加したい旨の回答をいただいた。

参加意向ありとした学校名（順不同） 千葉商業高等学校、千葉南高等学校、千葉西高等学校
柏の葉高等学校、成田西陵高等学校、松尾高等学校、昭和秀英高等学校、千葉黎明高等学校
千葉女子高等学校

- (1) 成田空港での選手たちの出迎え

世界女子ソフトボール選手権大会に参加する選手たちの空港での出迎えを行った。

実施日時・場所 平成30年7月25日（水）16時20分～18時20分

成田国際空港第2ターミナル到着ロビー

参加校 千葉西高等学校 生徒4名 引率1名 千葉女子高等学校 生徒3名 引率1名

実施概要 当日は、成田国際空港に到着したニュージーランドチーム、イギリスチーム（一部）及びチャイニーズタイペイチームの選手たちを、受入れ自治体（市原市、君津市、銚子市）の関係者とともに到着ロビーで歓迎用ボードや国名ボードを掲げて歓迎した。

なお、歓迎用ボードは千葉黎明高等学校書道部の皆さんが作製した。

(2) 大会期間中の選手等との交流とおもてなし

8月9日の移動・休養日選手の宿泊施設（千葉市内及び成田市内）で交流とおもてなしを計画した。このうち、千葉市内の宿泊施設とは調整がつかず、成田市のホテルマイステイズプレミア成田で文化体験等を計画したが、台風13号が接近に伴う安全確保のため、本事業は中止した。

参加予定校等 昭和学院秀英中学校・高等学校（10人）、成田西陵高等学校（3人）

千葉黎明高等学校（3～4人程度）、千葉西高等学校（4人）、房総のむら（3人）

おもてなし内容 書道体験、折紙体験、甲冑・打掛の試着、版画の体験などによるおもてなしを予定した。

宿泊チーム オーストラリア、カナダ、中国、イタリア、プエルトリコ

(3) その他のおもてなし

ア 「やさしい日本語」講座でのおもてなし（イギリスチームの事前キャンプ）

実施日時・場所 平成30年7月26日（木）18時20分～19時10分

エストレーホテル（東金市） レストランスペース

参加校等 松尾高等学校 生徒5名 引率2名 学生団体おりがみ 大学生2名

実施概要 松尾高校生徒が作製した「やさしい日本語カード」を使用して、日本語がわからない外国人のための緊急時や日常生活に必要な言葉40を選び、コミュニケーションをはかる講座を開いた。

イ 「書道教室」のおもてなし活動（イギリスチームの事前キャンプ）

実施日時・場所 平成30年7月29日（日）18時20分～19時10分

エストレーホテル（東金市） レストランスペース

参加校 千葉黎明高等学校 生徒5名 引率1名

実施概要 千葉黎明高校書道部生徒による書道パフォーマンスと、選手たちの書道体験でおもてなし活動を実施した。

2 国際会議等でのおもてなし活動の実践体験

プロジェクト結の「箸置きプレゼント」との協働事業として行うものとして計画したが、実践体験を行うための国際会議等について調整がつかず、本年度は実現できなかった。

（参考）事業期間以前の平成30年4月に同趣旨の事業を生涯学習応援団ちば、プロジェクト結及びちば国際コンベンションビューローの協力のもと、幕張総合高等学校生徒が実践しており、その結果報告は「Ⅶ 資料・参加者の声」（資料1）を参考にしていきたい。

3 空港での歓迎イベントの研究と提言

事業推進に当たっては、学生団体おりがみの皆さんによる成田空港の視察調査を行い、調査結果を踏まえ、高校生と大学生によるアイデア検討会として「おもてなしLABO」を実施した。

(1) 成田空港の現地調査

実施時期・場所 平成30年8月30日 11時～15時

成田国際空港第1及び第2ターミナルビル

参加者 学生団体おりがみ 11人 関係者・事務局 2人

実施概要 以下の点について2グループに分かれて視察調査した

調査場所は第1ターミナル・第2ターミナルの国際線到着ロビー

調査のポイント

ロビーに到着して目に入るもの、電車等の案内（適切か）

観光地、施設等への案内（バス、電車等）

空港内マップにあるエレベーター、多目的トイレのチェック

食事、土産など その他

視察調査を踏まえ、11月11日に調査結果の報告会及びアイデア検討会を学生団体おりがみと高校生で実施することとした。

(2)「おもてなしLABO」の開催

趣 旨 2020年にオリンピック・パラリンピック出場選手や観戦者等多くの方が日本に最初に訪れる成田国際空港を起点として、日本らしい歓迎をどのように示していけるかについて研究し、その結果を広く提案しようとするもので、提案されたアイデアが成田国際空港のみならず、千葉県内各地域でのおもてなしの発想に広がっていくことを目指した。

日 時 平成30年11月11日（日） 午後1時30分～午後4時45分

会 場 千葉県教育会館本館2階203会議室

参加者 参加総数 43人

【内訳】 高校生 10人、大学生 16人、助言者等 9人、県・応援団ちば 9人

会の流れ

1) 千葉県の現在の「ボランティア」について

県、関係団体及びボランティアに取り組んでいる高等学校などから現況について報告を頂き、ボランティアに関する情報の共有を目指した。

【情報提供内容及び提供頂いた方々】

大会ボランティアについて

説明者 (公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
ボランティア推進課 嘉藤一仁さん

都市ボランティアについて

説明者 千葉県環境生活部県民生活・文化課 水野敬一朗さん

成田空港周辺等のおもてなし実践例

説明者 千葉県スポーツコンシェルジュ 大久保利宏さん

街の魅力・バリア点検隊 フォローアップ調査「海浜幕張駅より北側におけるバリア調査結果（平成30年9月23日実施）」

説明者 昭和学院秀英中学校・高等学校生徒

「地震リーフレットを作ろう！ ～日本を訪れる旅行者に安心を～」の取組みについて

説明者 佐倉高等学校生徒

2) 調査レポ「成田空港を見て」

学生団体おりがみが平成30年8月30日に行った成田国際空港（ターミナルビルなど）の視察調査結果を発表

3) ワークショップ「成田空港からはじめる実験！」

学生団体おりがみの進行により、以下のような内容で実施した。

ワーク

自己紹介と、報告を聞いてやってみたいこと、思いついたアイデアなどをまとめる

意見交換

ワークで作成したシートを持ち、小グループに分かれてシートの発表を行う

□講評・グループ分け

助言者の明石理事長（千葉敬愛短期大学学長）、学生団体おりがみの香取さんがアイデアについて講評を行い、それを参考に主なアイデアを選び、グループ分けを行った。

□ディスカッション

まとめた意見はワークシートに記入

□発表

各班からまとめたアイデアを発表する

【各班の発表項目】

1班 太巻き祭り寿司を活用した千葉文化の発信

2班 空港第一ターミナルの展示スペースにおりがみ、けん玉などを体験できるスペースを作る

3班 日本のアニメやゲームの文化を発信したい

4班 五感を使って体験できる日本文化

5班 空港のスペースを活用して佐倉高校の防災リーフレットを展示

6班 成田空港神社を設け、日本文化を体験

7班 AR、VRなどを利用しマンガで情報発信

4) 講評・感想など

次の助言者や、関係者の皆様から講評・感想をいただいた。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 嘉藤一仁さん

千葉県環境生活部県民生活・文化課 水野敬一郎さん

成田空港株式会社 篠村英成さん

千葉県観光物産協会（会長） 飯沼喜市郎さん

千葉敬愛短期大学学長（生涯学習応援団ちば理事長） 明石要一さん

4 高校生たちからの提案アイデアの実現

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージでは、高校生たちからおもてなし活動に関して様々なアイデアが提案された。本年度は、そのアイデアの実現に向け、提案者及び関係者・関係校と連携して、それらの実現を目指す。

(1) やさしい日本語でコミュニケーション

提 案 校 松尾高等学校生徒

経 過

□6月11日（事業開始前）

松尾高校関係者と協議し、本提案の実現を目指すこと、当面7月に山武市で事前キャンプを行うソフトボールイギリスチームを対象に、宿泊施設で「やさしい日本語講座（仮称）」を開催し、2020年に向けた取組みのスタートとした。

□7月26日

松尾高校生徒が作製した「やさしい日本語カード」を使用して、日本語がわからない外国人のための緊急時や日常生活に必要な言葉40を選びコミュニケーションのための講座を開いた。

参 加 者 松尾高校生徒 5人 引率教員 2人 学生団体おりがみ 2人

イギリスチーム選手・関係者 22人

※平成31年1月には、中国の中学生を対象にやさしい日本語講座を開催

(2) 地震パンフレットを作ろう

提 案 校 佐倉高等学校生徒（Sのゆかいな仲間たち）

経 過

- 平成30年8月23日13時～ 高校生2名、学生団体おりがみのメンバー2名による意見交換会を開催し、今後の取組方などについて考えた
ターゲット、パンフレットを配布する場所、配布する機会、生徒たちの交流等
生徒は、意見交換の結果を踏まえながら、すでに作成済みのパンフレットに手を加え、今後、応援団ちばでパンフレットの印刷をサポートすることとなった
- 平成31年2月16日に開催するフォーラムに合わせて、佐倉高校の生徒が作成した原稿に基づき、三つ折りの英文パンフレットを印刷、当日の参加者に配布した。

(3) 街の魅力・バリア点検隊のその後の取組み

提 案 校 昭和学院秀英中学校・高等学校生徒

経 過

- 生徒たちが中心になり、平成30年9月にフォローアップ調査を行い、昨年度との比較を行うとともに、より詳細なバリアについて調査を行った
- 今後に向けて幕張新都心のバリアフリーマップを作成することとし、平成31年2月16日のフォーラムでもテーマの一つに取り上げ、今後の取組みについて検討した。

5 オリンピック・パラリンピックの意義の普及とパラスポーツの体験・普及

これまでの2020ちばおもてなし隊や、学生団体おりがみの活動実績を踏まえ、「オリンピック・パラリンピックの理解促進のため、要請に応じて関係者等を学校に派遣」及び「パラリンピック競技の普及・体験・交流の推進」を目指したが、学校などからの要請がなかったため未実施となった。

また、大学生等が特別支援学校の生徒とパラスポーツの体験を通じて交流を進める事業についても、実施はできなかったが、平成31年2月16日に開催したフォーラムの中で、学生団体おりがみが実施した「パラコネクト」について紹介をしてもらい、今後の普及につなげることとした。

6 オリンピック讃歌普及の促進

千葉県高文連などと連携し、高校生たちが行う「オリンピック讃歌」普及活動の支援を目指した。オリンピック讃歌普及のためには、楽譜の入手が必要であることから、千葉県を通してオーケストラ用楽譜を管理している公益財団法人日本オリンピック委員会（以下「JOC」と表記）に貸与を依頼し、平成30年11月に千葉県がJOCから貸与を受けた。

合唱用楽譜及び吹奏楽用楽譜については管理者が異なり、また、権利問題があることから本年度の入手は行わず、オーケストラ用楽譜について、高等学校に利用意向の調査を行うこととした。

調査対象は、千葉県高等学校文化団体連合の器楽・管弦楽部会に加盟する千葉県内24の高等学校とした。

調査は、平成31年1月8日付で文書を発出し、その結果、以下の3校から利用したい旨の依頼をいただいた。

千葉女子高等学校、幕張総合高等学校、昭和学院高等学校

このため、本事業期間終了日（平成31年3月11日）までの間、という条件で楽譜の貸出しを行った。

7 フォーラム「私たちのおもてなし」の開催

本事業は、2020ちばおもてなし隊のこれまでの活動を踏まえ、来年夏に迫ったオリンピック・パラリンピックへ向けて、高校生・大学生ができる関わり方や新たな繋がりのあるあり方についての提言を参加者が一緒にまとめようとするものとして開催した。

事業のタイトルは以下の通りとした。

2020へ！わたしたちのおもてなし ～おもてなし活動で見つける私たちの宝物～

開催日時及び会場 平成31年2月16日（土）午後1時30分～午後5時15分

千葉大学 総合校舎1号館 101教室

参加者 参加者総数73人

【内訳】

高校生等 27人 内 高校生 23人 引率等 4人

参加者在籍校 昭和学院秀英中学校・高等学校、幕張総合高等学校

佐倉高等学校、松尾高等学校、松戸高等学校

聖徳大学附属女子高等学校、東邦大学附属高等学校、麗澤高等学校

検見川高等学校

大学生等 17人

参加者在籍校 千葉大学、東京農工大学、獨協大学、昭和女子大学、大東文化大学

帝京平成大学、国際トラベルホテルブライダル専門学校

社会人等 17人

主催者・出演者 12人

会の流れ 司会・進行：幕張総合高校放送委員会生徒

1) 開会行事

主催者あいさつ……千葉県環境生活部県民生活・文化課

企画・運営団体あいさつ……特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば

2) 第1部 これまでのおもてなし活動の紹介

平成29年度、30年度を中心とした高校生、大学生たちの取組みを紹介した

発表者（発表順）

○松尾高等学校……おもてなしボラコンで提案した「やさしい日本語でコミュニケーション」の実践状況（ソフトボールのイギリスチーム、中国人留学生）について紹介

○佐倉高等学校……おもてなしボラコンで提案した「地震パンフレット」についての取組みを紹介

○昭和秀英中学校・高等学校……街の魅力・バリア点検隊とその後の取組みについて紹介

○幕張総合高等学校……国際会議での「箸置きプレゼント」と、その後の箸置き製作者との交流について紹介

○学生団体おりがみ……大学生と特別支援学校の児童・生徒との交流事業である「パラコネクト」について紹介

○学生団体おりがみ……成田空港から始まるおもてなしについて、おもてなしLABOでの取組みなどを紹介

3) 第2部 トークセッション「おもてなしを考えよう」

第1部の発表を受けて、ゲストスピーカーによる意見・感想を通じて「おもてなし」につ

いて考え、第3部のワークショップにつなげた

□ゲストスピーカー

明石要一さん……千葉敬愛短期大学学長、千葉大学名誉教授、生涯学習応援団ちば理事長
都築則彦さん……千葉大学大学院生、学生団体おりがみ代表
金子和也さん……ゴルフボール2018日本代表強化指定選手

□コーディネーター

大久保利宏さん……千葉県スポーツコンシェルジュマネージャー

4) 第3部 高校生と大学生によるワークショップ「私たちのおもてなし」

第1部、第2部を受け、テーマごとにグループをつくり、オリンピック・パラリンピックへの高校生・大学生ができる関わり方や新たな繋がりについて、7つの班に分かれて検討した。

テーマは以下の4つとした。

□バリアフリーマップのグレードアップと普及

□太巻き祭り寿司によるおもてなし

□成田空港展望デッキでの日本文化体験

□地震対策パンフレットのグレードアップと普及

各班の高校生たちは、それぞれのテーマを考察する上で必要となる「福祉」、「地域」、「国際」などの専門分野に分かれ、大学生からのレクチャーを受け、ディスカッションを行った。その後、各班に自分の考えた企画を持ち帰り、各班のテーマについての企画をまとめる作業を行った。

5) 第4部 まとめと提言

ワークショップでの意見交換などを経て、各班からテーマについての提言を行った。

各班からの発表後、ゲストスピーカーによる講評が行われ、会は終了した。

フォーラムでテーマごとに行った提言について、次年度以降実行できるようにするための詰め作業を3月中に行うことになった。

※第1部の「これまでのおもてなし活動の紹介」の概要、第3部の「ワークショップ」での各班の提案となる模擬企画書及び参加者の声を、「Ⅶ 資料・参加者の声」（資料2-1～6、資料3-1～7及び資料4）に掲載した。

IV 2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡの推進

1 関係団体との協力

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡでは、様々な団体の皆様の協力を頂きながら、事業を推進してきた。

その概要は以下のとおりである。

□学生団体おりがみ

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ全般にわたって、企画立案の段階から協力頂いた。

特に「空港での歓迎イベントの研究と調査」では、主体的にかかわるとともに、「おもてなしLABO」及び「フォーラム」でのワークショップでは実施方法の提案及び高校生とともに言う提言作りなどにおいて重要な役割を果たした。

また、本事業とは直接は関わらないものの、同趣旨の事業として「学生会議」を企画運営し、この場面でも多くの高校生とともに2020年のオリンピック・パラリンピックへの関りについて検討を進めた。

【参考・学生会議の概要】

開催日時 平成30年12月16日（日） 10時30分～ 18時

開催場所 千葉大学西千葉キャンパス 教育学部棟

主 催 千葉大学、特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば

企画運営 学生団体おりがみ

主な内容 「自分を変える・社会を変える」をメインテーマに、大学生・高校生が中心になって、2020年のオリンピック・パラリンピックを「スポーツ」、「国際」、「文化」、「環境」、「教育」、「福祉」の分野から考えるディスカッション形式の分科会をメインに、ゲストを迎えての講演会を行うイベントとして開催した。

参加者 150人

高校生 26人、大学生等 56人、おりがみスタッフ 45人、その他 23人

生涯学習応援団ちばの関わり

本事業について、県内の全高等学校への告知

助言者としての参加

全大会の司会・進行

□ちば国際コンベンションビューロー 千葉県スポーツコンシェルジュ

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージ全般にわたって、企画立案の段階から、各事業に実施段階に至るまで、多方面で多大な協力をいただいた。

□第16回世界女子ソフトボール選手権大会組織委員会

ソフトボール世界選手権大会でのおもてなし活動の実施に当たり協力いただいた。

□千葉県高等学校文化団体連盟

オリンピック讃歌の普及促進に当たり、様々なアドバイスをいただいた。

2 広報について

(1) 学校等への周知

ア 国際スポーツ大会等でのおもてなし活動の参加について

平成30年5月31日付け文書でおもてなし活動への参加意向について調査をした。

対象：県内の全高等学校

イ 2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡについて

平成30年9月10日付け文書で、チャレンジステージⅡの事業の概要の紹介および参加方法などについてお知らせをした。

対象：県内の全高等学校及び特別支援学校

ウ 2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ「おもてなしLABO」の開催について

平成30年10月12日付で、「おもてなしLABO」への参加を呼び掛けた。

対象：県内の全高等学校及び特別支援学校

エ オリピック讃歌の楽譜について

平成31年1月8日に、JOCから貸与いただいたオリピック讃歌の楽譜（管弦楽用）の利用希望について照会をした。

対象：千葉県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会加入校（24校）

オ 2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ フォーラム「2020へ！わたしたちのおもてなし」開催のご案内

平成31年1月の文書で、フォーラム開催の案内を行うとともに、ポスター及びチラシを配布した。

対象：県内の全高等学校・特別支援学校

県内大学・短期大学・高等専門学校、県内市町村教育委員会、県内生涯学習施設（生涯学習センターなど）、県内国際交流協会など

ポスター・チラシの印刷部数：ポスター 1,000枚 チラシ 20,000枚

(2) 報道機関を通じたお知らせ

事業推進に際して、千葉県庁記者クラブを通じて報道機関へのお知らせを行った。

ア 「世界女子ソフトボール選手権大会でのおもてなし活動の実践」について

平成30年7月18日付

イ 「おもてなしLABO」の開催について

平成30年11月5日付

ウ フォーラム「2020へ！わたしたちのおもてなし」の開催について

平成31年2月8日付

(3) ホームページ、Facebookを通じた告知

おもてなしLABO開催前及びフォーラム開催前にホームページ及びFacebookを活用した告知を行った。

併せて、千葉県公式Facebookページ「ちばボランティア情報局」、学生団体おりがみのFacebookページなどでチャレンジステージⅡの様々なイベントの紹介をして頂いた。

(4) その他

ア 平成31年2月1日（金）

千葉テレビで放送中の「楽しもう！ Chiba de Tokyo 2020」（21：55～22：00）の中で

おもてなしLABOの様子や、成田空港での出迎えの様子などを紹介いただいた。

イ 平成31年2月15日（金）

NHKのFM千葉で放送されている「ひるどき情報ちば」の中のコーナー「ちば☆スポ」に生涯学習応援団ちばから出演し、翌16日のフォーラムや2020ちばおもてなし隊の活動について紹介した。

3 企画会議・意見交換会等について

事業の企画、事業内容の検討は、生涯学習応援団ちばメンバー、千葉県スポーツコンシェルジュ関係者、学生団体おりがみ、学校関係者、行政関係者などの皆さんとの意見交換を進めながら行ってきた。

意見交換会などの経過は以下の通り。なお、4月、5月及び7月に実施した意見交換会は、県との委託契約締結前のものである。

平成30年4月20日

平成30年度の2020ちばおもてなし隊事業の進め方全般について意見交換

平成30年5月28日

平成30年度の2020ちばおもてなし隊事業の狙い、事業項目などについて意見交換

おもてなし活動に関する高等学校の意向調査について協議

平成30年7月2日

平成30年度の2020ちばおもてなし活動のうち、当面する課題（世界女子ソフトボール選手権大会でのおもてなし活動）をメインに意見交換

平成30年8月2日

空港での歓迎イベント及び高校生たちからのアイディアの実現をテーマに意見交換

平成30年9月6日

2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ全般の進め方について意見交換

特に空港での歓迎イベントと提言について、調査終了後の高校生・大学生の意見交換会について協議

平成30年9月27日

おもてなしLABOのコンセプト、告知方法、進め方などについて意見交換

平成30年10月31日

おもてなしLABOの進め方の詳細などについて意見交換

平成31年1月8日

フォーラムの全体構成などについて意見交換

平成31年2月8日

フォーラムの進め方（詳細プログラム）について意見交換

以上のほか、個別の案件ごとに関係者と意見交換、情報交換などを進めてきた。

V 活動の様子

1 世界女子ソフトボール選手権大会でのおもてなし（平成30年7月・成田空港での出迎え）



ニュージーランドチームの出迎え



ニュージーランド選手団・受け入れ自治体の皆さんと



チャイニーズ台北選手団・受け入れ自治体の皆さんと



イギリスチームの選手とともに

2 世界女子ソフトボール選手権大会でのおもてなし（平成30年7月・イギリスチームとの交流）



やさしい日本語講座（松尾高校）



イギリスチームと松尾高校・大学生の皆さん



書道体験（千葉黎明高校）



イギリスチームと千葉黎明高校の皆さん

3 空港での歓迎イベントの研究と提言

(平成30年8月・空港での事前調査 平成30年11月・おもてなしLABO)



成田空港の様子をチェックする大学生の皆さん



成田空港の様子をチェックする大学生の皆さん



おもてなしLABO (アイデアを付箋に記入)



おもてなしLABO (アイデアを前に意見交換)



おもてなしLABO (助言者から)



おもてなしLABO (グループ討議の結果発表)

4 フォーラム「2020へ！ わたしたちのおもてなし」（平成31年2月）



おもてなし活動を紹介



ゲストスピーカーの皆さん



大学生によるレクチャー



アイデアをまとめる高校生・大学生



アイデアをまとめる高校生・大学生



アイデアの発表 1



アイデアの発表 2



アイデアの発表 3

VI 今後を展望して

フォーラムの感想と課題

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば理事長 明石要一

「私たちのおもてなし」よく頑張りました。ご苦労様でした。

このフォーラムの特徴は三つあります。

一つは、中学生と高校生が中心となっている活動です。オリパラに向けた「おもてなし」の活動で中高生が主体的に参加しているものは少ないです。具体的な活動を紹介します。

昭和秀英中学・高校の「街の魅力・バリア点検隊の取り組み」は地道で丁寧な活動です。これによって、千葉県と千葉市の行政を動かしています。画期的なことです。

県立佐倉高校は外国の方に向けた「地震パンフレット」を作成しています。日本人なら「当たりまえ」ということを地震の体験が少ない外国の方にわかりやすく「対応方法」を示しています。きっと安心し助かるでしょう。

県立松尾高校は、高校が指定を受けているSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）の利点を使って、外国の方に対する「やさしい日本語」習得の方法を示したパンフレットを作っています。

県立幕張総合高校は、NPO団体とコラボして外国の方に「箸置き」をプレゼントする活動をしています。ヨコのつながりを大切にしています。

二つ目は大学生の団体が中高校生の活動をサポートしている、ことです。

千葉大学の学生が中心となって作った学生団体「おりがみ」は、首都圏を中心に活動しています。この団体が先に述べた高校生たちと議論を重ね、活動の質を高めてくれています。ファシリテーターの役割をしてくれています。

三つ目は、「おりがみ」は独自の「おもてなし」活動をしています。

中高校生の活動を支援するだけでなく、独自に成田空港でのおもてなしや特別支援学校の児童・生徒との交流事業である「パラコネクト」も行っています。「パラコネクト」はこれから最も注目される活動になるでしょう。

それでは、これからの課題は何でしょうか。

「おもてなし」は千葉と日本人の心と文化を伝える、ことです。もっと千葉にこだわる必要があります。学会で各地を訪れます。ふり返って印象に残っているのは、どの発表がよかったというより、ご当地の「食文化」とご当地の「お土産」が記憶に残っています。千葉の食文化とお土産は何でしょうか。それにこだわり、外国の人に伝えて欲しいのです。

伝える手段には、今回のようなパンフレットは言うまでもなく、音や動きを集めた映像も考えてくれるとよいでしょう。何をコーチューブにあげればよいか、の検討も一つの知恵です。

もう一つの課題は、「オリパラ」以後を見据えた活動をどう作り上げていくか、です。「おりがみ」の「パラコネクト」も一つです。大阪万博もあります。中学生・高校生と大学生、それから民間のNPO団体とのコラボを増やすにはどうすればよいか、が浮かびます。

2020ちばおもてなし隊活動に参加して

学生団体おりがみ 香取美海

本年度、私共は「やさしい日本語講座」のお手伝いや、成田空港についての現地調査と意見交換、そして最後のフォーラムに携わらせていただきました。昨年度のたくさんのアイデア出しの機会を踏まえ、今年度はもっとアイデアの実践にも携わっていきたくて思っていました。夏のソフトボール女子世界選手権におけるおもてなしにはあまり参加することができませんでした。来年度こそ企画を実現することにもっとこだわりたいと強く思う1年間でした。

成田空港でおもてなしをしたいという声を昨年度に聞いていたため、まずはどんなおもてなしができそうなのか、大学生が現地調査に行きました。8月末、まだ日中は気温が30度を超える暑さの中、空港に降り立った観光客の気持ちになって空港を調査しました。魅力や改善点をかなり細かく調査したことにより、11月に開催したおもてなしLABOでは中高生がより具体的に「ここであれをやってみよう」と見つけることができたと感じています。足りないものをどう補うかではなく、既にあるものをどう活かすかという思考になれたことが、自分たちにできることとして捉えられたという重要なポイントでした。どのアイデアもとても魅力的でかつ実践的だったため、来年度にぜひ実施していきたいと考えています。

その後間もなく2月に実施されたフォーラムでは、今までの活動発表を通して中高生たちが自分たちの活動の重要性を改めて認識し、そのアイデアを深めていくことによって実現に向けて動き出すということを強く実感してもらったイベントになったかと思えます。これまでのアイデアディスカッションや、小さな成功の体験（昨年度のバリアフリーマップの作成・発表や、本年度のやさしい日本語講座など）をどのように今後活かしていくか、時間が短い中少し難しい話し合いになりました。企画を作る際に、私たち大学生がよく重要視している視点を高校生たちにも取り入れてもらおうと思い、福祉的な目線・国際的な視点・地域的な視点について学びの時間を作りました。この企画づくりの前に入れた学びの時間が、どれほどその後の企画づくりのディスカッションに生きていたかは正直とても不安なところでした。普段大学生は、その視点を無意識に入れていることが多く、改めてそれを目に見える形で考えることは新鮮で少し難しさを感じていました。同時に、話が盛り上がる班には、今までの活動を通して、それぞれの目線で考える力がついてきている生徒もいたことを知り、とても嬉しく思いました。その場の全員がこのように様々な視点を持つことができるようになると、もっとアイデアの質が上がっていくだろうと思っています。

本年度の活動を通して、中高生の考案するおもてなし活動はより自発的で周囲の人に「一緒にやりたい！」と思わせるようなパワーがあると実感しました。おもてなしLABOやフォーラムでは、昨年度より具体的で熱意のある意見がたくさん出て、それを実現させたいと思う大学生も増えました。来年度やっていきたいことは、それらのアイデアをどんな形にしても実現させてみることで、そして少し失敗の経験を積むことです。思い描いたアイデアが実現された時、なんか違うな、もっと改善したいな、という感覚を得ることによりアイデアはブラッシュアップされるため、その経験を積むことが必要だと感じています。おもてなし隊が、2020年に向けてさらに中高生たちの活動を広げていくこと、そして2020年以降も必要とされる場所であり続けることのために、このような機会をたくさん作ることが私たちの行いたいことです。そのために、これまでの活動をどれだけ今に活かせるか、そして自分の考えている企画にどれだけ様々な視点を入れられるか、これらを来年度も引き続き重要視しながら活動を練っていきたくて思っています。

2020ちばおもてなし隊
チャレンジステージII

おもてなしLABO

大学生と一緒に、
自分たちができる
おもてなしアイデアを考えてみませんか！

AIR PORT

Welcome to JAPAN

2020年に向けて...!
「成田空港からはじめる
おもてなしを考えよう！」

平成30年11月11日(日) 13:30~16:30

※開催時間は変更になる可能性があります。

場所:千葉県教育会館本館2階203会議室
参加費:無料 対象:県内在住or在学の高校生・大学生 ※一軒の方もご参加いただけます
内容:成田空港からはじめるおもてなしアイデアの意見交換・交流
参加申込・お問合せ:特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば事務局(申し込み締め切り:11月7日(水)必着)
電話・FAX:043-304-5545 Eメール:2020chiba.omotenashi@gmail.com
主催:千葉県 企画運営:特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば 協力:学生団体おかり

おもてなしLABOとは…?

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることで、成田空港を始めとして千葉県内各地にも多くのお客様が世界中から訪れることでしょう！
観光客の受け入れ態勢やボランティアをテーマとして自分たちができるおもてなしを、大学生と一緒に考えてみませんか？

※2020ちばおもてなし隊とは…
2020年に千葉を訪れるお客様へのおもてなしや千葉の情報発信を高校生をはじめとする若者が行います。それを通じて大学生と高校生等の連携を基本に、様々な人々とのつながりをひろげ、「おもてなし」や「ボランティア」の基盤・人材づくりを目指しています。

当日のプログラム

☆導入部『千葉の現在の「ボランティア」について』
2018年夏に行われた、第10回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会のボランティア活動報告や、編纂委員会の大会ボランティア、千葉県の都市ボランティアについて、募集状況や活動内容の情報共有をします。

☆第1部『調査レポート「成田空港を見て」』
成田空港からはじめるおもてなしについて、まずは実際に大学生が空港を視察した結果を報告します。

☆第2部『ワークショップ「成田空港からはじめる実験！」』
第1部の発表をもとにしたディスカッションとアイデア検討を行います。
発表されたアイデアは、次年度以降に実施を試みる予定です。

アクセス

場所:千葉県教育会館(千葉市中央区中央4-13-10) ☎043-227-6141

◎徒歩でお越しの場合
京千葉駅…20分
京本千葉駅…12分
京成千葉中央駅…12分

◎バスでお越しの場合
2番、3番より乗車
中央4丁目にて下車
徒歩3分

◎モーター車でお越しの場合
龍川公園駅から徒歩6分

「おもてなしLABO」チラシ (デザイン:伏見 拓さん)

Ⅶ 資料・参加者の声

資料1 IEEE ICASI 2018における箸置きによるおもてなしについて

資料2 「これまでのおもてなし活動の紹介」概要

フォーラム（平成31年2月16日開催）での発表内容

資料3 フォーラム ディスカッション模擬企画書

フォーラム（平成31年2月16日開催）での提案概要

資料4 参加者の声

フォーラム（平成31年2月16日開催）でのアンケート調査結果より

Ⅶ 資料・参加者の声

資料1 IEEE ICASI 2018 における箸置きによるおもてなしについて (4th IEEE International Conference on Applied System Innovation 2018)

生涯学習応援団ちば事務局

- 1 日 時 平成30年4月15日(日) 12時から13時
- 2 場 所 幕張メッセ国際会議場201
- 3 箸置き 約500個
- 4 渡し隊 幕張総合高校生徒会・放送委員会生徒6人

5 場 面

標題の会議が国際会議場で行われており、会議が終わって会議室から出てくる参加者に対して、「箸置きとは」「作っている人たち」などを話しながら幕張総合高校生が箸置きを手渡した。

6. スケジュール

- 11時 国際会議場1Fロビー集合 関係者紹介、渡し方等のレクチャー
- 11時45分 会議場前でスタンバイ
- 12時40分 終了、生徒解散

※当日はNHKの取材があったほか、幕張総合高校放送委員会生徒が、箸置きを作った皆さんに受け渡しの様子を伝えるため、動画撮影をした。撮影したものは3分程度にまとめ、後日、作った皆さんに披露することとなった。

7. 当日参加者

プロジェクト結小林氏ほか1名
幕張総合高校生徒(生徒会、放送委員会)6名、引率 矢嶋先生、小林先生
ちば国際コンベンションビューロー 田中氏、上竹氏
千葉県スポーツコンシェルジュ 大久保氏
生涯学習応援団ちば 高橋事務局長

8. 結果について

最初は緊張気味であった高校生たちが、次第に慣れる中で積極的に英語で話しかけ、プロジェクトの趣旨を伝えることができるなど、素晴らしいおもてなしの体験ができた。

また、平成30年5月には幕張総合高校の生徒が、当日生徒たちが撮影した箸置きの受け渡しの様子を記録した映像を持参し、箸置きを製作している高齢者の皆さんと交流した。

これら一連の様子はNHKで放映された。

箸置きによるおもてなし活動の様子



事前準備の様子



ロビーにいた参加者を相手に予行演習



手渡しの様子①（幕総生徒も取材中）



手渡しの様子②



NHKによる生徒のインタビュー

【これまでの取組みの概要】

取組にあたっての考察

- 在日外国人や来日外国人をサポートするための手段として「やさしい日本語」カードを作成し、利用するのは有効か？

やさしい日本語とは

- 通常の日本語より簡単で、外国人にも理解しやすい。
- 日本語能力試験に基づいている。
- 弘前大学で研究されている。

在日外国人が英語日本語を話せる比率

- 英語 千葉県で53.2% (全国 44.0%)
- 日本語 千葉県で80.0% (全国 62.6%)

外国人に生活なフレーズ40を絞り、日本語カードを作った

- 英語バージョンと中国語簡体字バージョンを作成。
- 英語や中国語部分は他の言語に置き換え可能。

期待される効果

- 1 日本語が国際的に使われる言語になる。
- 2 日本在住の外国人にも役立つ。
- 3 外国人観光客の緊急のニーズに応えられる。
- 4 ボランティアとともに様々な活動ができる。

実践してみた

- 2018年7月26日、世界ソフトボール選手権イギリス代表チームに「やさしい日本語カード」を実践。
- 2019年1月25日、中国撫順第一中学校の生徒に「やさしい日本語カード」を実践。

【活動してみて大切に思ったこと・今後につなげるためにどのようにしたいか】

実践結果①(良かった点)

- 1 説明しなくても進んで使ってくれた。
- 2 何も言わなかったのに持って帰ってくれた。
- 3 このカードは使える！と言ってくれた。

実践結果②(悪かった点)

- 1 枚数が多くて探すのが大変。
- 2 紙が破れやすい→素材の問題
- 3 文字だけだと分からない。
- 4 空欄部の自国語を使用者が日本語に直せない。

改善点

- 見やすくする。
- 冊子にする。
- 雨にも対応できる素材のものにする。
- 外国人だけでなく、いろんな人が使えるようにする。

資料 2-2 活動紹介内容 幕張メッセ周辺 バリアフリーマップ

学校名（グループ名） 昭和学院秀英中学校・高等学校 生徒会本部

【これまでの取組みの概要】

1 活動概要

バリア調査オリパラを観覧しに来る観光客に対してのおもてなしを考える

↓

「全ての人が安全に会場にたどり着くことができるのか」という疑問を持つ

↓

会場周辺のバリアの状態を調査し、バリアフリー環境が整っているかを調査する

2 昨年度の活動

街のバリア・魅力点検隊

オリパラの開催地である幕張にて、会場最寄りの海浜幕張駅から、会場の幕張メッセなどの観光施設に向かう5つのルートを設定。

↓

そのルートの中で、点字ブロックの破損などのバリアや、千葉の魅力を伝えられるような施設を発見する調査を実施。

3 今年度の活動

幕張メッセ周辺再調査

- a. 昨年度報告したバリアの改善具合昨年度の活動を通して千葉県・市役所に報告したバリアがどのくらい改善されたのかを知るため、昨年度の資料と見比べながら実地調査を行いました。
- b. より詳細なバリア調査昨年度行った調査よりも細かく実地調査を行うことで、見落とししやすいバリアの発見に近づきました。

【活動してみて大切に思ったこと・今後に繋げるためにどのようにしたいか】

今後について (オリパラに向けて)

バリアフリーマップの作成

- 幕張メッセ周辺のバリアフリー情報を掲載した地図を作成

→ 翻訳したものを観戦しに来た方に渡す

→ 大会ボランティアの方に役立ててもらおう

バリアの情報提供地図アプリなどに調査して得た、バリアフリーマップの情報を提供する

今後について (オリパラ以降)

バリアフリーマップの作成、アプリへの情報提供

- 大会後も情報を更新し続ける

→ 常に最新の、幕張メッセ周辺のバリアフリー情報を誰でも入手することができる

- バリアフリーについて多くの人に知ってもらう

→ バリアフリーについての意識向上につなげられる

資料2-3 活動紹介内容 インバウンドにとって分かりやすい地震対策についてのリーフレットを作ろう
学校名(グループ名) 県立佐倉高等学校(Sのゆかいな仲間たち)

【これまでの取組みの概要】

私たちが2年間研究してきたテーマでは、3つの観点から考えました。

①『社会に貢献出来ること』

そこで目を付けたのは約8年前に起きた東日本大震災です。

②『自分たちに出来ること』

ここで、思いついたのは地震リーフレットの作成です。パンフレットでは持ち運びにくく、手にとってもらいにくいと考え、持ち運びやすいリーフレットを選択しました。

③『グローバル的な問題』

2年後の東京オリンピック時には東日本大震災の時とは比べ物にならないほど多くの外国人観光客が来日します。その時、首都直下型地震が来たら東日本大震災よりも確実に混乱に陥り、それによる被害もより多く発生するでしょう。そこで、世界共通語である英語でリーフレットを作り、混乱を抑えようと考えました。

本当に外国人観光客の方々がリーフレットを必要としているかどうか先行研究しました。熊本地震で被災した旅行者に地震が起きた時にどのような対処をしてほしいかというアンケート結果によるとリーフレット(マニュアル)を配布するという回答が約62パーセントありました。

リーフレットは大きく分けて5つに分かれています。

①「地震の基礎知識、二次災害について」

ここでは、震度ごとの被害規模、地震からくる二次災害「津波」について記載しています。

②「確認すべきこと、持ち歩くべきもの」

具体的には被災に備えて家族で被災後の集合場所や安否確認の方法を決めること、佐倉市役所の人と話し合っておきたいものを持っておきたいものを記載しています。この2つは外国人観光客が避難を必要とするほどの大きな地震を経験したことがない人が多いため記載しようと考えました。

③「各場所における地震の対処法」

地震の知識は知っていても対処法が分からなければ意味がありません。そこで、パニックに陥りやすいであろう地下や密室、人が多い公共交通機関などを例に挙げ記載しています。これもまたアンケートをした結果、机の下に隠れるなどの基本的なことしか知らない外国人観光客の方々が多かったので記載しようと考えました。

④「東日本大震災について」

地震の知識や対処法だけ知っていても実際にどれくらいの被害が出るのか分からなければ軽い気持ちで地震を見るでしょう。しかし、東日本大震災の実際の被害者数を見ればそんな気持ちは無くなり、地震の対処法をしっかりと覚え、身構えることができるでしょう。

⑤「171について」

171とは、緊急用災害伝言ダイヤルことです。これは、現在日本語版しかありませんが使い方をリーフレットに記載することで外国人のかたでも使うことができます。リーフレットの内容は以上ですが、「避難所も書いた方がよいのでは?」という疑問に対しては、リーフレットに同じサイズの設置する地域の避難所の紙を挟むことによって解決できます。

【活動してみて大切に思ったこと・今後につなげるためにどのようにしたいか】

私達の2年間の集大成でありゴール。「地震リーフレットの成田空港への設置案」です。「学生団体おりがみ」の調べによると成田空港には使われていないスペースが多くあるそうです。そこで、「釜石の奇跡」を題材とした壁紙ストーリーを作り、地震の怖さ、対策すれば助かるんだ、ということを知ってもらい、私達のリーフレットを手にとって貰おうという案です。さらに、津波の実際の高さ、出来る事なら地震の体験車を設置したいと考えています。提案して実際にその案を実行するには時間が足りません。

そこで2020東京オリンピックに間に合わせるために今の1年生!私達の研究を引き継ぎませんか?打ち合わせや外部とのコミュニケーション等、大変なことは多いですがとてもやりがいがあり、何より公共の場においていただくものに名を残すことができます。是非やる気のある人は声をかけてくださいね!

【What is Earthquake】

Various things happen depending on the severity of the earthquake.

Seismic intensity 1~3: It happens on a daily basis.

4: People walking also notice somewhat big tremor.

Lower 5: Big tremor which interferes with things.

Stronger 5: Big tremor which interferes with act.

Lower 6: Shaking that makes people difficult to stand.

Stronger 6, 7: Sometimes it cannot move and it is skipped, a very big swing.

【What is TSUNAMI】

Of an earthquake shaking more, the phenomenon by which seawater presses against land.

The town is confined to the seawater and homes, trains, and so on are washed away.

Measure to in order to protect ourselves

Evacuate to high places such as nearby hills, towers, buildings!

Don't approach the sea!

※Continue evocation until the warning.

【Things to carry around】

It should be carried around in preparation for an earthquake!

☐smartphone ☐charger ☐cash ☐light

☐identification ☐number ☐plastic bag

☐medicine - chest items ☐first - aid - kit

【Things to check】

Confirm evacuation location in case of disaster!

Moreover, it is safe to check the method of safely confirmation within the group and the meeting place!

Great East Japan

Earthquake March 11, 2011



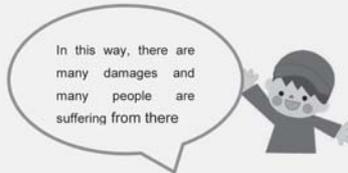
A Number of

Death toll: **15,894**

People missing: **2,562**

Evacuees: **1,231,606**

Building collapse: **400,827**



【Disaster Message 171】

☐Dial 171

☐《Recording》Dial 1《Playback》Dial 2

☐Enter the person's phone number

☐Dial 1#

☐Record and Dial 9# or playback voice

Leaflet for seismic counter measure ~protect my own life by myself~ Sakura high school

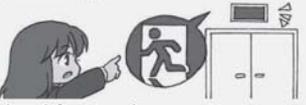


Underground

- ① Wait for the shake to fade and calmly check the position of the emergency exit



- ② Head for an emergency exit while protecting yourself.



- ③ Head for another emergency exit if it is crowded.



On the ground

Distance from building. If you cannot, you hide yourself from falling objects.



Transportation facilities

Train・bus

- ① Grab your hand on straps or handrails while protecting yourself



- ② Don't take selfish actions and obey instructions of clerk.



Elevator

- ① Press all the destination floor buttons and get off elevator all the stopped.



- ② If you are confined, report on the interphone and wait for rescue

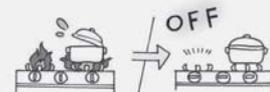


Indoor

- ① Secure escape mouth and protect yourself.



- ② Turn off the fire if the shake stops.



- ③ Calmly evacuate with somethings to carry ground.



Toilet・bathroom

- ① Open the door.
- ② Go to a safe place as soon as possible.



【これまでの取組みの概要】

昨年、幕張メッセで行った箸置きボランティアについての報告です。

配布した箸置きは、プロジェクト結という団体で大人から子ども、障害がある人など様々な人が制作しており、プロジェクト結という団体は、2020年の東京オリンピックに向けて色々な人にオリンピックに関わる機会を作るといふ思いと日本に来た海外の方に日本のおもてなしの心を伝えたいという思いから始まった団体です。

(映像で様子を紹介) 去年の4月に幕張総合の生徒会と放送委員会が幕張メッセで行われた国際会議の参加者に箸置きをプレゼントし、その様子を5月に箸置きを制作している皆さんに報告しに行きました。

英語で話すのは当日知ったので、みんな緊張していたのですが海外の方にもしっかり伝わったようで、たくさんの方に喜んでいただきました。この後追取材という形で何度か関わらせていただいたのですが、どの場所でも和気あいあいと活動していてとてもいい雰囲気だなと思いました。

また箸置きを配ったときの映像を見ていただいたときの様子がとてもうれしそうで、自分が作ったものがどのようになっているかを知って、また箸置きを作るエネルギーなのかなと感じました。

【活動してみて大切に思ったこと・今後につなげるためにどのようにしたいか】

今までボランティアは気軽にやっていいものではないと思っていたのですが、プロジェクト結に関わってそのイメージが変わりました。

またプロジェクト結の活動は色々な場所で行われていて、来週(2月)24日にも千葉市緑区おゆみ野のみんなの広場で箸置きづくりをやっているそうなので興味があった方はぜひどうぞ!

【これまでの取組みの概要】

パラコネクトとは、特別支援学校の子どもたちと若者がスポーツを通して交流するプロジェクトです。

このプロジェクトは「共生社会の輪を広げる」ことを目指しています。社会は私たち自身を含め、様々な理由から生きづらさを感じている人で溢れています。しかし、その生きづらさは、互いが助け合い、楽しさを分かち合う輪を作り、一人でも多くを巻き込むことで少しずつ解消されていくのではないかと考えています。

このプロジェクトでは、自分たちの普段やっている好きなスポーツが、障がいを理由にできない人がいるという現状に着目しました。私たちの当たり前にならせることはすべての人が同じようにこなせるわけではありません。しかし、みんなのできない人のできない理由を考えて工夫したら、楽しさを分かち合えるのではないかと、そんなスポーツ交流会を作りたい。これがパラコネクトを通して私たちが実現していきたいことです。

パラコネクトの流れは以下の通りです。

- ①授業を見学し、特別支援学校の子どもたちと触れ合う。
- ②子どもたちの慣れ親しんだスポーツで交流会をする。
- ③スポーツのテーマを決めてアレンジしていく。
- ④③で考えたオリジナルのスポーツで交流会をする。
- ⑤子供たちが新しく来た若者にオリジナルスポーツを教え、若者が楽しめるようになってから再度スポーツ交流会をする。

これら5つの段階を通した取組みを行っています。

実際に、以下のスポーツを作りました。

スポーツ：バレーボール

障害領域：知的障害

子どもたちの困難：

- ボールが当たった時や身体接触した時の痛みでパニックを起こす
- ボールの空間把握が難しい

工夫：

- ボールはソフトバレーボールを使う
- 円を作りパスがどれだけ回せるかで勝負する
- 数回のバウンドまで可
- 手袋をはめる
- 片手の手の平でボールを打つ

【活動してみて大切に思ったこと・今後につなげるためにどのようにしたいか】

パラコネクトの拡大の先にみえるものとして、全国パラ大運動会(仮)というイベントを考えています。

オリパラ推進校を中心とした全国各地の特別支援学校の子供たちと、小・中・高・大学生が一丸となって、競技・応援・パフォーマンスなど様々な面から盛り上げて作る大運動会を現在構想中です。

2020年のパラリンピックによっておこるであろう社会の変化が、社会という漠然とした大きな枠組みだけでなく、私たち一人一人も関わっていくことができるようにしていくことを目標としています。

【これまでの取組みの概要】

2018年の活動

成田空港での実地調査：大学生が現地にいき空港内で改善できる点、いい点・悪い点を見つけることを目的に調査おこないました。

おもてなしLABO：中・高校生と大学生一緒に成田空港での調査を元にどんなおもてなしが空港でできるかということを話し合い案を出し合いました。太巻き祭り寿司の調理体験、日本文化体験、防災リーフレットの普及などたくさんの案が出ました。

【活動してみて大切に思ったこと・今後につなげるためにどのようにしたいか】

実際に現地に行ってみないと気づけないことが沢山ある。

中・高校生の空港でこんなことをしてみたいと言う思いの強さがとても伝わり実現させたい！と私自身も強く思いました。中学生～大学生が集まり一緒に企画を練って実現させようとするのはとてもやりがいのある活動だと思います。中・高校生の柔軟な発想や大学生の豊富な知識が集結することで色々なアイデアが出てきました。

色々な年代が集まって考える時間を共有することは大切なことだと実感しました。実現のためには大人の方々の助けがあってこそです。その為にも大人の方々に一緒にやりたい！と更に思っただけのように今出ている企画をさらに詰めていき中学生～大人の方々の全員で素敵なおもてなしが出来たらいいなと思います。

資料3-1 フォーラム ディスカッション模擬企画書 1班

企画名	地震パンフレットのグレードアップと普及
目的	2020年にやってくる外国人に、震災が起きた時の対応策を伝える
ターゲット	日本にやってきた外国人、地域の人
開催期間 開催場所	
集客目標	
内容	<p>今までの地震パンフレットに加えて…</p> <p><memo></p> <p>◇国際 自分で体験 入国時、dangerアラームが鳴る→備える ARで被災地の写真何かと一緒に</p> <p>◇福祉 視覚障がい者と言ってもいろいろ→文字の大きさを変える、点字、音声</p> <p>◇地域 人が集まりやすい場所 地元の人でも喜ぶ（広報誌） 避難経路をVR</p> <p>①内容 ②配慮 ③受け取り方</p> <p>①QRで実際の怖さを知ってもらう ②字の大きさ 様々な障がいを持つ人、内容、文字に問題 →フリガナ、簡略化 ネット→使えるの？ 紙：手元にあってすぐ見られる ネット：バリエーションが増やせる リーフレット→震災時にネットが使えないから</p> <p>③観光パンフレットにくっつける</p>

企画名	
目的	日本の四季を『浴衣』でより楽しんでもらう さらなる『非日常』の提供
ターゲット	外国人：こんな風に他の四季を楽しみにきたいな！ 日本人：いつも通りではない、いつもの四季
開催期間 開催場所	
集客目標	成田空港を扱う人が何人いるのか
内容	<p>浴衣の着付け体験 ⇒四季を感じれるスポットへ 春：桜、夜桜 夏：海、花火 秋：紅葉、寺 冬：神社仏閣、初詣</p> <p>■どうやって作るか 冬：初詣⇒より日本らしい！ くじ引き、絵馬、マナー 露店 もち、みずあめ（いちごあめ）、甘酒（地域）、みそ汁（地域）</p> <p>■視点 【福祉】 ○おみくじ：文字がわからない⇒点字 ○屋台：どんなお店があるか...⇒大きな日本マップ、ガイド（地元の人） 五感を扱う 【地域】 ○地元の学生お客さんとして招く⇒○○だより ○付近の神社へ行きたいな。と誘導⇒紹介 【国際】 ○場所の意味がわからない⇒何をまつっているのか。紹介。最新技術 ○難しい漢字・言葉を使わないようにする⇒ ○日本の新年のあいさつ</p>

資料3-3 フォーラム ディスカッション模擬企画書 3班

企画名	四季折々を空港で体験！
目的	「四季」も日本文化四季要素を含むブースでの体験を通じて日本文化を体験する。五感で体験できるブースを多く設けて誰もが楽しめる展望デッキに。
ターゲット	空港に来る外国人
開催期間 開催場所	1か月程度 成田空港展望デッキ
集客目標	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◦外国人観光客にレンタル浴衣を着て空港内を自由に散策できる場所を作る ◦空港展望デッキに春夏秋冬のブースを作りどの季節でも四季を感じられるような内容を行う。 <p>「春」 桜の花見 茶菓子などを食べる文化体験 →成田市内の和菓子屋さんと協力</p> <p>「夏」 祭り 盆踊り、射的 自分たちで作るお祭り おみこし担ぎ →千葉県全域いろいろな地域祭りを紹介（地域）</p> <p>「秋」 お花見を展望デッキで行う。 秋が旬の食べ物を食べる →地域食材を使う</p> <p>「冬」 イルミネーション 飛行機の装飾 +α 空港で飛行機を飛ばすコンテスト →小学生が紙飛行機づくりの先生となるなどする イルミネーション（桜、紅葉、雪） →音のなるマットなどを用いて視覚障がいの方でも体験できるようにする（福祉） 空港内の飲食店と提携して飲食の試食（天ぷらとかを旬の食材で）</p>

資料3-4 フォーラム ディスカッション模擬企画書 4班

企画名	書道からはじまり、つながる日本体験文化体験
目的	<ul style="list-style-type: none"> ◦外国の方に「書道」という文化に触れてもらう。 ◦五感（今回は主に視覚、触覚、嗅覚）を使って、日本文化を体験ではなく「体感」してもらう。 ◦人に伝えたいエンターテイメント的な体験にする。
ターゲット	〔主〕成田空港に来た外国人 〔副〕成田空港に来た家族等
開催期間 開催場所	期間：2019年夏～2020年秋 場所：成田空港展望デッキ付近
集客目標	500万人（仮）←国際線外国人利用者数1551万人（2017）
内容	<p>【キーワード】：書道、インスタ映え、五感 →参加した高校生3名が各領域ごとでの話し合いを共有後印象に残ったキーワードがこの3つであったため。</p> <p>【流れ】：</p> <p>①食べ物（仮/いちご、報連相、ニンジン、レモン、ミカン、ブルーベリー、キムチ）から色素を抽出する。 →ここでしか体験できないレア感を出す。</p> <p>②①で抽出した液体を用いて、色、におい付きの書道を行う。 （書く対象：団扇や扇子、色紙等） （書く内容：国旗、名前、手形、似顔絵等） →マスキングテープやスタンプなどで自由に装飾も</p> <p>③②でデザインしたものを、巨大顔出しフレームパネルに貼り付ける。 →希望者は持ち帰り可能</p> <p>④③で貼り付けたものが組み合わさりインスタ映えする。かもしれないスポット完成。外国人が「発信したくなる」仕掛けへ。</p> <p>【課題】：</p> <p>①手が汚れてしまったりするものは、時間が無かったり、荷物を持っている外国人に参加してもらおう工夫をしないと難しい。</p> <p>②色素を一定量抽出することは、資源の無駄遣いにならないか。 （量を要するため）また、酸化等により汚臭にならないか。 →野菜スタンプ等で日本の野菜を知ってもらう（自国との違い等）といった方法も考えられる。 以上暫定企画。</p>

資料3-5 フォーラム ディスカッション模擬企画書 5班

企画名	バリアフリーマップを知ってもらおう
目的	各世代に応じて様々なアプローチでバリアフリーマップを知ってもらう
ターゲット	各世代 特に小学生
開催期間 開催場所	
集客目標	
内容	<p>案</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ SNSや新聞に載せるー若者やサラリーマンとか対象に応じて ◦ より見るものや五感に訴えかけるものを利用する <p>○子供 特に小学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ バリアフリーマップのアニメを作る ◦ 絵本 ◦ ゲーム ◦ 公園 ◦ 学校 <p>○若者</p> <p>スマホ SNS ネット youtube インスタ映えスポット カフェ</p> <p>○大人</p> <p>新聞 ネットニュース 電車の広告</p> <p>○高齢者</p> <p>地域の集まり 病院 テレビ ラジオ ご近所話 回覧板</p> <p>子供と一緒に体験</p> <p>特に小学生を対象として考えた。</p> <p>大学生や高校生が小学校に訪問し、小学生に地域のバリアフリーマップを見せて、実際にその場所に行ったり、校庭などで点字ブロックなどを作り、アイマスクや車椅子などの障がい者体験をする。</p> <p>障がい者の方と一緒に体験もあり</p> <p>→危険性を理解してもらおう。子供の時の記憶は残りやすいから。</p> <p>家族の会話などで、子供から様々な世代の人に伝えてもらう</p>

資料3-6 フォーラム ディスカッション模擬企画書 6班

企画名	太巻き祭り寿司を発信しよう
目的	千葉の魅力を発信する 外国の方に千葉の魅力を知ってもらって、思い出（魅力）を持って帰ってもらう、 そしてまた来たいと思ってもらう
ターゲット	
開催期間 開催場所	○夏頃 ○成田空港 ◦人目につきやすい場所・大規模にする
集客目標	
内容	<p>☆空港の待ち時間にやってもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦時間はそんなに無い→巻く部分だけやってもらい、食べてもらう ◦具材は選べるようにする（ベジタリアン、宗教上の理由などに配慮） ◦好きな絵柄を選んで作れる（バラ、蝶…四季折々、チーバくんもできる） ◦地域の具材を使う ◦フォトスポット ◦作ってるところを見せる <p>□目を引く、立ち寄ってもらう工夫は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦「無料で食べれますよ！」 ◦何をやってるか一目で分かるようにする ◦人目につきやすい場所・大規模にする ◦出国ゲート前 <p>□千葉のアピールポイントって？</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦綺麗な街 ◦バームクーヘン ◦ショッピングモール（柏、船橋）→集まってる買い物しやすい <p>□パッケージ売り</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦寿司の絵を工夫する ◦レジン ◦飛行機内で食べられる

資料3-7 フォーラム ディスカッション模擬企画書 7班

企画名	ミニ銭湯！ ～日本文化で彩を～
目的	海外に日本文化の良さを伝える。
ターゲット	外国人観光客
開催期間 開催場所	<ul style="list-style-type: none"> ○春or夏 ○開催場所 成田空港
集客目標	一度に30人程度を動員
内容	<p>○足湯</p> <ul style="list-style-type: none"> ○掘りごたつ形式（25cm） ○盆栽を風景の一部に ○床を寄木でデザイン ○スタンドグラスで富士山 ○入る前にマナー講習レク ○そばに売店を設置 <p>→種類「コーヒー牛乳」「フルーツ牛乳」「お茶各種（外国人向け）」</p>

資料4 参加者の声

フォーラム アンケート調査より

Q フォーラム全体をとおしての感想、ご意見、ご提案などがあれば記載してください。

- 自分の提案が実際に企画まで進んで、とてもうれしいです。ぜひ企画に携わりたいです。今日はありがとうございました。(10代・女性)
- 色々な人からの視点で物事をみることができたので良かったです。(10代・女性)
- オリンピックに少しでも関わりたいです。(10代・女性)
- 初めてのことですごく緊張したけど、同じ班になった大学生の方たちがすごくフレンドリーで楽しかったです。ありがとうございました。参加してよかったです。(10代・女性)
- 自分たちの学校で生かせるようなアイデアがたくさん出てきてとても有意義なものになりました。ありがとうございました。(10代・男性)
- 若い人達の発想、アイデア、構想など参考になりました。発表の場がもっとあればよいと思います。(60代・男性)
- トークセッションではパネルディスカッションを期待したが、ほぼ自己紹介で終わったのが残念だった。(60代・男性)
- 色んな知恵や意見が出たと思います。具体的にプランをつめて企画書を完成させて実行していただきたいと思いました。また、それを体験する機会を作っていくのに協力をしたく感じました。(60代・男性)
- 目標を立てることは大切だと思う。その目標を達成するために計画を持って行動できるとより良くなると感じた。(10代・男性)
- 2020年のオリパラのボランティアに参加できないが、このような形でかかわることができて嬉しいです。(10代・男性)
- トークセッションやワークショップなどがとても楽しかったです。学年を交えた交流はとてもいいと感じました。(10代・女性)
- 高校生と大学生が一緒になっておもてなしを考えられて楽しかったです。来年や今後の会議にもぜひ参加したいです。(10代・男性)
- 福祉、地域、国際など様々な観点から考えることが多かったので新鮮でした。(10代・男性)
- 専門に関してコンパクトに説明することがいかに難しいか分かりました。(20代・男性)
- 参加させていただいてありがたかったです。(10代・女性)

編集後記 -2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡを終えて-

2020ちばおもてなし隊の事業は、本年度で5年目となりました。今年のチャレンジステージⅡでは事業実施結果に記載したような事業に取り組んできました。

大きな狙いとしては、千葉県で開催された世界女子ソフトボール選手権大会や、国際会議、スポーツイベントなどを通じて若い世代の皆さんに自分たちで考えるおもてなし活動の実践体験の機会を提供することであり、もう一つは大学生と高校生などとの繋がりを作り出しながら、今後のボランティア人材の育成につなげようとしたことです。

前者については、関係者の皆さんの協力をいただきながらも、気象条件なども重なり、十分な機会の提供はできませんでした。今後、私たちと様々なイベントの主催者や関係する自治体との皆さんとの連携、協力関係をきちんと構築することが必要と痛感しました。

後者については、平成30年11月の「おもてなしLABO」や、平成31年2月の「フォーラム」を通じて今まで以上に大学生と高校生の関係作りができたものと考えます。共通のテーマに沿って時にはレクチャーし、時には一緒に考える姿はとても頼もしいものがありました。

また、今年度も、新たな参加校が増えたことも喜ばしい成果でした。

今後に向かって、さらに多くの若い皆さんが2020ちばおもてなし隊の活動に参加されることを期待します。

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば 事務局

平成30年度次世代ボランティア人材育成事業
2020ちばおもてなし隊チャレンジステージⅡ
-2018から2020へ-

事業報告書

平成31年3月8日発行

千葉県

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば

フォーラム 2020へ！ わたしたちのおもてなし

～おもてなし活動で見つける私たちの宝物！！～

参加者募集！

2月16日(土)
13:30～17:00



オリンピック・パラリンピックへの自分なりの関わりと繋がりを見つけてみよう。
それが私たちの宝物＝レガシー！

ゲストスピーカー

明石要一さん (千葉敬愛短期大学学長、千葉大学名誉教授)
都築則彦さん (学生団体おりがみ代表)
渡邊紫帆さん (ロンドンパラリンピック陸上競技代表選手、千葉県出身)
金子和也さん (ゴルフボール2018日本代表強化指定選手)
コーディネーター 大久保利宏さん
(千葉県スポーツコンシェルジュ マネージャー)

プログラム

- 1 これまでのおもてなし活動紹介
- 2 トークセッション「おもてなしを考えよう」
- 3 高校生と大学生によるワークショップ
「私たちのおもてなし」
- 4 まとめと提言

実施詳細

開催日：2月16日(土)13:30～17:00 受付開始13:00

開催場所：千葉大学西千葉キャンパス総合校舎1号館101教室
(千葉県稲毛区佐野1-3-3)

募集人数：100名 ※どなたでもご参加いただけます

申し込み方法：右記のQRコードからフォームを記入するか、

メール (2020chiba.omotenashi@gmail.com) or FAX (043-304-5545) までお申し込みください。

主催：千葉県 企画運営：特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば 特別協力：学生団体おりがみ
お問い合わせ：特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば事務局 電話：043-304-5545 携帯電話：090-9205-3450 (高橋)

メール・FAXの場合は、
参加者の氏名(ふりがな)、
学校名などを明記してください。
※申し込み期限2月14日



こちらよりお申込みできます